

## 光線療法の道に入る

昭和52年10月26日、父が他界しました。顧みれば、昭和7年に東京光線療法研究所を設立して以来、今次大戦で応召された一時期を除いて、光線療法一筋に生きた生涯を終えたのである。私がとて光線療法は、生まれた時から座右にあり、それが子供の頃から何かあれば使うのが当たり前と思っていたが、医科大学に進学し医学を志してからも、父が研究所に訪ねて来た人と光線療法の話をしているのを他人事のように聞いていた。その後、父の晩年の二年間程、大学勤務を非常勤にして父の仕事の一部を手伝ったが、な勤務医を辞める気にはならなかつた。父の志を継いで、光線療法に終生をかけるようになるとは思つても見なかつたのである。私は光線療法が余りに身近にあつたため、無意識のうちに甘く見ていたようだ。しかし、思い掛けず大黒柱の父を亡くしたことが、光線療法を見直す切掛けになつたのである。その上、それまで父と共に光線療法の普

及に全力を傾注している人々の真摯な姿や全国の多数の愛用者の声に接して、光線療法を天命としようと決意をしたのであるが

少しも抵抗なく入れたのは、子供の頃から効果を実感していたからである。

## 現代医学を捨てたのか

私が大学を辞し、父の後をついだことを知つた医師仲間や知

人から、しばしば

“医者を辞め

るのか？”とか

“現代医学を捨てたのか？”とか

“それで寂し

いだことを知つた医師仲間や知

人から、しばしば

初詣



贊  
光  
譜



## 病気を癒すのは

wn into the sea, it would be much better for mankind, and much worse for the fish.,

大抵の人は、病気は治して貰うものの様に考えているが、これは間違いである。病気は病人自身に生理的エネルギー(自然

門の一針と言うべき言をなしてい。』

良能)がなければ治らないのである。この病気を癒す上で必要な生理的エネルギーは、光線、水、空気によって与えられる。

これが不足は、病人自身が自然力により補わなければならない。自然力を無視して、健康は考えられないものである。

詩人国木田独歩は「薬を以て疾病を治さんとするは、少なくとも不合理なり。医師よ去って

鳥は如何にして癒え、魚は如何にして治すかを究めよ。其所に必ず自然最良の方法あらん」と述べ、ハーバード大学教授オーリバー・ウェンデル・ホームズ

は「人類が之れまでに服用した薬を一切海に投げ棄てたら、人類にはずっと幸せだが、魚にとてもは甚だ不幸である。」『If all the medicines, had ever been taken by mankind, were thro

## 太陽エネルギー

## 宇宙の三大元力

百歳になりなんとする歳を重

である。

わが国は旭日昇天の像をとり

て以て国旗としているが、光を崇め、光を身に受けようではないか。光は平和であり、建設であり、生産であり、恵みであり、

くべき仕事を白日の下に営んでいる。植物は人知の遙かに及ばない偉大な化学者なのだ。

もし人類が、植物の行う光合

成を人工的に機械によって再現できたら、最早田を作ることも、苗を植えることも要らなくなる。

人造米製造株式会社の工場が各地に作られ、スイッチひとつ捻れば、どんどん米粒が流れ

いる。五十歳にして、生ける屍の如くなる人もいる。十代、二

十代で夭折する人もいる。一は

「光と熱」

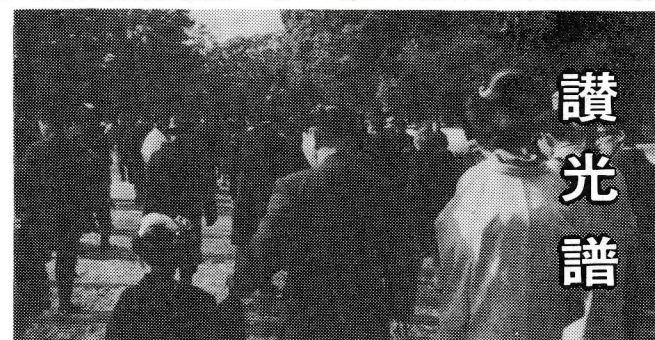
更に、人類(動物)も例外なく偉大な化学者だ。日夜、植物が補促した太陽エネルギーを

利用して、血液やリンパ液や骨や皮膚や筋肉や毛髪やホルモンを、自分自身で製造している

「血液製造株式会社」なんかな

いのである。

健康であれば、手掌に睡して富を得る事が出来る。仮にも人も羨む才能があつても、病めるが故に無為に終わり貧に落つるのである。



宇都宮義真撮影

## 自然最良の

## 治療法

宇都宮 義真

ね、<sup>ふくろい</sup> 豊饒として報國に励む人が

がつてていることを知らなければ

ならない。

「光と熱」

昭和九年三月十五日

—鳥魚の病氣—

—海に棄てる薬—

—以上惨にして悲しいことはない。

昭和十一年六月一日 —偶感—

昭和十一年七月十日 —感想—

より要約した。

# 日本療術学会

ホテル ホリディ・イン 横浜

平成三年十二月二十四日

光線療法による

## 難聴の一治験例



社団法人神奈川県療術師会  
渡辺 貴

音性難聴を起こす突発性難聴で、厚生省により特定疾患、即ち難病に指定されている。症例二は、急性中耳炎による伝音性難聴である。

〔症例二〕 74歳 女性

本年一月中旬、突然、右耳の一側性の難聴を起こした。なおその前から、めまいや耳鳴りがあつたが、元来血圧が高い上、

孫が不治の病に侵された心労が重なっていたので、そのせいだと思つて気にしないようにしてゐた。ところが、娘からの電話を、普段は左耳で受け答えしているのに、その時、たまたま右耳でとり、相手の声が全く聞こえないのでイタズラの無言電話と思つて切つてしまつたのである。そのことを娘に注意され、右耳が聴こえないことに気付いた直後に来所した。

患者が当治療所にいの一番に飛んで来た経緯は、五年前に七ヶ月の赤ちゃんの中耳炎が治らず、抗生物質も効かないでひどい耳だれが続き、医師からこの子は感染症にかかり易い体质があるため、行く行く腫になると言われていたのが、三ヶ月の光線療法で完治したこと憶えていたからである。

〔症例二〕 68歳 女性

鼻風邪を患らつて二、三日後に発熱、左耳痛を認め、左耳に水が溜つているような感じがするようになり、急性中耳炎と診断された。そのため耳を水で冷やしたりしたが、痛みは治まらず、左耳たぶの後を押すとぐじゅぐじゅ言う音を感じる。と同じに気付いた。

〔症例二〕 光線療法は、症状の変化に応じて、AとB、BとC、BとDのカーボンを組み合わせて使用した。照射部位ならばに時間は、腹部、腰部、足裏、足首、後頭部に各10分、両耳に集光して30分を基準にして行つたが、右耳はカーボンの燃焼する音が全く聞こえないと言つていた。

取り敢えず、患者の容態を把握するため、翌日耳鼻科を受診させた。その結果、突発性難聴と診断され、通氣と薬の投与を受けたが、聴力障害は年齢的にも回復は難しいかも知れないで余り期待しないで、片方が聞こえるから良いでしようと言われたという。そのため本人は半分治るのを諦めたようであった。加えるに、投与された薬剤を服用したところ、副作用かどうかは詳らかではないが、二日目に頬が真っ赤にほてつてきたために服用を止め、光線だけで治してほしいと強く希望した。

光線療法を始めて三週間ほど過ぎて、改善の兆しが表れた。まず右耳でカーボンが燃える低い音が微かに聞こえるようになる。この間、耳がつまつた様な感じがしたり、耳たぶの後側に

痛みが出たりした。三週過ぎてから、六週位まで、様々な耳鳴り、例えは、水の流れる様な音を訴えていた。また雑踏の中で色々な音が反響してうるさいと言っていた。八週位には、これら色々の症状もすっかり落ち着き、多少の耳鳴りと、時々耳がつまつたような感じは残っていたが、聴力は著しく改善し、右側の耳で電話の受け答えが何不自由なく出来るようになった。

〔症例二〕 患側の左耳に集光して2時間近く照射したが、ストップとした感じで痛みがとれると共に、テレビの音量も普通で聞こえるようになり、水の溜まつた感じもなくなった。その後再発を疑わせる所見は全く認められず、何の支障もなく経過している。

〔考察ならびに結語〕

症例一は、難病に指定されるいる突発性難聴で、未だ原因は明らかでないが、幾つかの可能性が指摘されている。その代表的なものに、内耳循環障害説、ウイルス感染説、内リンパ水腫説がある。内耳循環障害説では、内耳の動脈の血栓や塞栓、あるいは血液泥化現象による血流の悪化などが考えられている。ウイルス感染説は、ウイルス感染

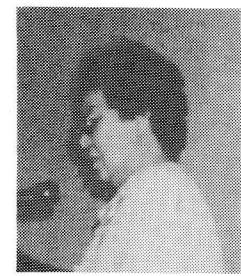
によって起こるとする説である。また内リンパ水腫説は、メニール病の原因と考えられている。病変と同じで、内耳のラセン器のリンパ液が増えるのが原因と考える説である。しかし何れにせよ、早期に治療しない限り治療効果は期待出来ないとされている。

今回の突発性難聴の治験例は、発病直後から光線療法を行い、ほぼ完全に聴力は回復したが、光線療法は全身の血液循環を改善すると共に、独特の深部温熱作用によって局所的に内耳の血液循環やリンパ液の循環を改善する効果や、免疫調節作用によってウイルス感染に対する抵抗力を高める効果があるので、何れの原因説に対しても有効に作用することができる。

症例一は急性中耳炎による伝音障害であるが、光線療法によつて聴力障害は劇的に改善した。このような急性感染症には、患部に長時間照射する方が効果を得易い。

以上、難聴を訴えて来院した二症例の治療経験を報告した。殊に症例一の突発性難聴例は、確実に奏功する治療法が知られていない難病であり、これからも機会を得て症例を増やし検討したいと考えている。

## 花粉症における光線療法の効果について



社団法人神奈川県療術師会  
青木 杉

### (目的)

アレルギー疾患は、アレルギー体質、即ち内因のあるところに外因が作用することによって起ころのであるが、近年、日本人の30%から40%がアレルギー体質と言われるほど急増した。しかし、アレルギー疾患に対する研究の現状は、外因についての究明が盛んに行われている割に、内因の変遷、換言すれば、何故、アレルギー疾患に罹病し易くなつたのかについては未解決なまま放置されている。

一方、免疫応答を調節する機

転に、ビタミンDならびにビタミンDによって恒常性保持が厳密に規制されているカルシウム

代文明の進歩は生活の場から自然の光線を浴びる機会を奪い、

### (光線療法)

光線療法は同時に二台の光線治療器を用い、身体各部に照射する基本(全身)照射は原則と

してA又はABカーボンで、症

状を訴えている部位への局部照射は症状に応じて適宜カーボン

を変えて、総計約一時間前後照射した。なお治療に際し、必ず

基本照射を併せて行った。

### (症例)

〔症例一〕 29歳 男性 昭和61年3月初診

初診時の主訴は、毎年三月の

杉花粉が飛ぶ季節になると、結

膜炎や鼻炎を起こし、目が赤く

充血して涙がとめどなく出たり、

鼻水をすするようになり、この

症状が一ヶ月位続くことである。

光線療法はAカーボンで足裏、

膝、腰、ふくらはぎ、腸骨、耳

鼻に、BDカーボンを組み合わ

せて目に、一日一回、全体で一

時間照射した。その結果、一回

四回の照射で鼻水も止まり、五

回の照射で眼の充血がなくなり、

軽い痒みを残すのみになつたの

こしがちである。演者はこの点

が内因の変遷に係わっている可

能性を勘案して、花粉症に対する

光線療法の効果を検討したが、

予防、治療の両面において有効な所見を得たので報告する。

ビタミンDの欠乏状態、それに伴うカルシウム代謝の障害を起

こしがちである。演者はこの点

が内因の変遷に係わっている可

能性を勘案して、花粉症に対する

光線療法の効果を検討したが、

予防、治療の両面において有効な所見を得たので報告する。

ビタミンDの欠乏状態、それに

伴うカルシウム代謝の障害を起

こしがちである。演者はこの点

## 光線療法による ブドウ膜炎の一治験例



社団法人神奈川県療術師会  
海渡一二三

ため、眼科で眼の注射を受けた  
が自覚的に改善の兆しなく、そ

の上、ブドウ膜炎に併発した硝子体混濁のため視力が低下し医師に一層の視力低下のおそれがあると言われて不安をいだいていた時に、知人から光線療法を紹介され来院した。

ベーチェット病の疑い例に併発したブドウ膜炎に長期に亘り光線療法を行い、病状をコントロールする上で明らかな効果を認めたので報告する。

（症例）  
認めたの  
ロールす  
光綱癩江

症例 51歳 女性 主婦 初診  
昭和61年11月  
既往歴 病歴に特記すべきことはない。ただし、2年前に、下水の中に頭を押さえ付けられ、眼の感染症を起こしたことがある。なお偏食があり、魚と牛乳は全くとらないという。

主訴 両眼の結膜充血 眼痛  
頭痛 視力低下 眼瞼瞼瞼  
に 口内炎 皮下結節

エット病の疑いがあると言わると、連は不明であるが、掌蹠膿疮症を併発し、その外に、足の爪の変形、便秘、不眠、吐き気、風邪を引き易いなど多彩な訴えがあつた。

治療ならびに経過　外出時の眼の負担を軽くし、眩しさを避けるためサングラスを使用させた。なお本例は、患者自身の意志で眼科の治療を中断して光線療法を行つた。カーボンはB丁

一進一退を繰り返した。しかし、光線療法を引き続き行つたところ、徐々に結膜の充血を起こさないようになり、二年後からは起こさなくなつた。三年目には、視力は日常生活には不便を感じないところまで回復し、眼痛目やになどの症状もなくなつたため、通院療法を始めて四年目の平成一年二月から、光線療法は主に自宅で行い、時々治療と経過観察のために通院することにした。なお、それまでの三年間の努力が実つて病状が安定し

ろ落ちた。しかし、治療の回数を重ねる毎に快方にむかい、五ヶ月後には明らかに良くなつたが、そこでABカーボンに変えたが、七ヶ月後に発疹は消失し、以来膿疱の再発は認めていない。

現在、本例は光線療法を始めて五年、主に自宅での自己治療にしてから二年を経過したが、元気に働いている。

(考案ならびに結語)

連は考えにくく、むしろ発病を促す誘因として、環境から光線が失われ、その結果、光線を浴びる機会が奪われたためと考えられるのである。これを換言すれば、光線に予防効果、あるいは治療効果がある可能性が強く示唆されるのである。

演者は、これらの背景を勘案した上で光線療法を行った結果、臨床的に明らかに有効な所見を得たが、なおこれからも症例を増やし、光線療法の有効性を検討する所存である。

は分かるがはっきり見えない状態であった。また、明るいと眩しくて眼を開けていられない、瞼のような目やにが出る、繰り返し口内炎を起こすなどの症状に加えて、膝と足首に赤く盛り上がった硬い皮下結節を触れたが、これらの症状から、ベーチ

光線療法を初めて四ヶ月を過ぎる頃から、眼の痛みが和らいで楽になり、瞼のような目やにが減ってきたが、涙はとめどなく出ていた。七ヶ月目位から、結膜の充血は著しく改善し、涙も減ったが、なお左右の眼の外側の結膜に交互に充血を起こし、一進一退を繰り返した。しかし、光線療法を引き続き行つたとこ

緩解、増悪を繰り返し、医師から水虫と間違えやすい原因不明の厄介な病気で、病名は掌蹠膿疱症と言われた。本症には、BC又はABカーボンで患部に20分以上照射したが、最初のうち膿疱は良くなつては再発し、うろこ状の皮膚がぼろぼろ落ちた。しかし、治療の回数を重ねる毎に快方にむかい、五

は戦後になつて増加したが、疫学的に北の北海道、東北、北陸に多く、南の九州、沖縄に少ないことが明らかにされており、これが、食事の西欧化の洗礼を加えて、ハワイ在住の日系人に殆ど見られないことから、本症の増加と食事との関連は考えにくく、むしろ発病を促す誘因として、環境から光線

カーボンの組み合せ又はABカーボンの組み合せを適宜選択し、通院治療中は二灯照射法を用いて治療した。照射部分および時間は、まず側臥位で顔面30分、肛門、足首、腰、膝、腹、膝裏、足裏、後頭部に各10分、次に仰臥位にして左右から耳、肩、側腹部、膝、足首に各10分を基本にし、病状に応じて、カーボンの組み合せ、照射時間なら

たため、この時点で就職を許可した。その後、経過は順調で、平成三年の今日、ブドウ膜炎を含めて眼の症状は良好にコントロールされているが、結節性紅斑の皮下結節のしこりは今も残っている。なお本例は十年ほど前から、両側の足の裏に黄色い膿疱をもつて眼の症状は良好にコントロールされているが、結節性紅斑の皮下結節のしこりは今も残っている。

してブドウ膜に炎症を起こす病気になりベーチェット病がある。この病気の主症状は、ブドウ膜炎と口内炎と結節性紅斑と陰部潰瘍である。この四症状が揃えば診断の精度は上がるが、本例の場合、陰部潰瘍は全経過を通して認められない。しかし、その他、他の症状は揃っている点から、病院でベーチェット病が濃厚に疑われたものと思われる。

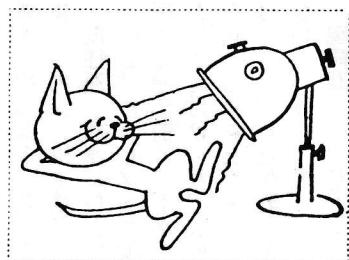
(考案ならびに結語)

ブドウ膜炎を起こす原因は様々であるが、全身症状の一部と

やし、光線療法の有効性を検討する所存である。

**症例** 55歳 男性 会社員  
足の親指の付け根の関節が激しく痛む。その日は会社が休みだったので近くの医院に行き血液検査を受けたが、尿酸値は11mg/dlと高尿酸血症を指摘され痛風と診断された。痛みは薬剤の治療で翌日からかなり楽になつたが、腫れは引かなかつた。  
この患者が光線療法を希望したのは、数年前から痛風を患っている先輩が尿酸値を下げるため未だに薬の服用を続いていること、以前に会社の同僚が光線療法で痛風を治したことを聞いていたこと、元来、薬嫌いで出来るだけ薬を飲みたくないことなどのためで、家人には反対されたと言つていた。  
身長162cm、体重69kgの小太りタイプ。内類が好物で、アルコールはナット類を飲みにビール

☆痛風



# —治驗例報告—

## ☆化粧品による

皮膚炎

翌日は痛みを殆ど感じなくなり、腫れもかなり引いた。患者は来所する途中に立ち寄った医院で、痛みが無くなつても尿酸値が高いと再発するから薬の服用を続けるように言われたが、これで却つて光線療法で筋肉を根治しようと決心したと言つていた。

大瓶一本、他に週に一、三回は水割り二杯程度。痛風発作を起す半月程前から、残業続きで毎晩11時過ぎの帰宅の上、休日も出勤していた。

療法経過　BBカーボンで集光して右足親指の付け根を中心、表裏、横から合わせて60分、その他、ABカーボンで足裏膝、背に各10分、ADカーボンで腹前後各10分照射した。

り返し、気分もめいってしまって鬱病のようになつてゐる時に友人に紹介されて来院した。初診時の所見は、顔全体に赤黒い発疹があり、目の周辺はかさかさとして、しみも多い。なお生理の遅れ、頭痛、寒気、睡眠障害、倦怠感などを訴えていた。療法経過 カーボンは最初の一週間はBDカーボンを、その後はABカーボンを使用した。治療は二灯照射法で行い、先ず側臥位で顔15分、腰15分、後頭部10分、腹15分、足裏15分、次に仰臥位で左右から、甲状腺10分

★全身湿疹

**症例 82歳 男性**  
全身に発疹とかきむしつた痕を認めたが、特に手足がひどく、耐え難いかゆみを訴えていた。とにかくひどい状態で、以前、やはり八十歳の高齢者で、

TEL 〇七八一三三二一三五八  
神戸市ウエノ光線療研  
上野 健太郎氏報告

## サンモアカーボンの 類似品について注意下さい

横腹10分、膝15分照射した。治療を始めて二十日間で症状は著しく改善したので、当院での治療を打ち切り、自宅治療とした。本例はホルモンのアンバランス、それに伴う自律神経機能の失調が症状の一因になったものと思われるが、現在は生理も順調で、全身状態も良好に経過している。また治療に際し、化粧品の選び方、副作用、使用上の注意などを教示した。

同様な症例の治療をしたことを思い出したほどである。

サナモアカーボンの  
類似品にご注意下さい

サナモアカーボンは、その使用法を書いた著書「光線療法學」ともども愛用者各位の御信頼を頂き、全国津々浦々まで高い評価を受けておりますことは、皆様方よくご存知の通りであります。

ところが他社製カーボンに「光線療法學」をセットしたり、サナモアカーボンと効果が同じという業者も業もないうたい文句で互換品を添付して販売している者が何時のもとより、このような道理にもとる行為をする者が何時の世にもいますが、当研究所としては他社製カーボンを使用した場合の効果について一切の責任はもてませんので與々もご注意下さい。

(サナモアカーボンには、製造元イビデン株式会社の商標「B」のマークが必ずついてます。)

東京光線療法研究所



(七八一) トトロ

苦しんだ方々にとつても掛け替えのない治療になつてゐることを付記出来るのは嬉しいことである。

兵庫県神戸市須磨区向川台

サナモア光線

との出会い



坂本貴子

昭和四十四年初秋の或日の夕方、Nさん宅を訪ねた折りに、Nさんが、「今朝から、ずっと考えているんだけど、○さんがあんなに光線療法を奨めてくれるのだから、ウエノ光線へ一回行つて見ようと思うの」と言われました。私もどんなものか興味津々だったので、「行きましょう」とタクシーを走らせました。

診療終了時刻の六時間際に着いた私達に、上野貞先生は、「どなたのご紹介ですか?」と尋ねられたので、「○さんの紹介です」と申しますと、「お上がりなさい」とおっしゃって、診療時間は終わっていたのに早速治療を始めて下さいました。

ことを勉強できる会があるから入会しなさい」と言われたので、す。さてどうしようと主人に相談したところ、「何でも覚えておくのは良いことだ」と入会を許してくれましたので、昭和四十五年に兵庫県療育師協会神戸支部にお世話になることにしました。これが私とサナモア光線との出会いですが、サナモアと引き合わせて下さった○さんNさんは心から感謝しています。

それ以来、光線療法一筋に勉強してきました。症例を上げれば切りがありませんが、多くの方々に喜んで戴きました。何の害もなく、気持ち良く、何時でも出来て、こんな重宝なものは

それからNさんは、毎日のうちにウエノ光線に通いました。Nさんは長年糖尿病を患っていました、少々目が薄くなっています。なので、大体私がお伴しました。私が付き添いで通っていましたら、上野先生が、「坂本さん、貴女も毎日のように付いてきて、光線に興味があるて時間があるなら勉強してみない?」とおしゃいました。私は、「病気や怪我で苦しんでいる人を見ると何とかして上げたいと頭では考えても、恐くて恐くてとても駄目です」と断り続けていましたが、或曰、「基礎医学や光線の

「ありません。ご近所の方が「光線をかけて……」と来られます  
が、光線をかけ始めて暫くすると、皆さん気持ち良さそうに寝  
てしまうほどです。これまで東京の目黒にも何回もお伺いし、  
先代の先生のご存命中はとても励まして戴きました。

ですが、事情の許す限り、東京で一生懸命研鑽を重ねています。上野貞先生は、「痛いのを我慢して治療を受けるより、気持ち良く治療を受ける方が効果的ですよ」と何時もおっしゃっていました。今更のように、サナモア光線の有り難さにお礼を申し上げたい気持ちで一杯です。

山口県熊毛郡熊毛町  
サナモア体験談を“愛用  
者だより”として掲載させ

山口県熊毛郡熊毛町

これが私とサナモア光線との出  
年に兵庫県療術師協会神戸支部  
にお世話になることにしました。  
てくれましたので、昭和四十五年

会いですが、サナモアと引き合  
わせて下さった〇さんNさんに  
は心から感謝しています。

それ以来、光線療法一筋に勉  
強してきました。症例を上げれ  
ば切りがありませんが、多くの方々  
に喜んで戴きました。何の

## ・サナキア体験談募集

め、写真を添えてお送りください。

(本細の無断転用を禁止します)

協会では、会員を募集しております。  
入会希望者は、左記宛御申込み下さい。  
〒153 東京都目黒区目黒4-6-18  
サンモア光線協会 TEL(03)3793-5281

天地創造の昔から、真の光、即ち太陽光線は、私たちに限りない恩恵を与えています。サナモア光線療法は、この太陽光線の健康増進、疾病予防および治療効果を利用した治療法です。従つて、目に見える可視光線だけではなく、目に見えないが無くてはならない紫外線や赤外線を目的に適切に放射しなければなりません。

このサナモア愛用者を以て、光線療法の研究を行うと共に、啓蒙、普及活動を行うためサナモア光線協会を設立しました。サナモア光線協会は、設立の趣旨に賛同載いた会員にて構成し、季刊紙「健康と光線」を発行します。